聴覚障がい者の特性について

文字通り、聴覚に障がいがある者を言います。つまり耳が聞こえない障がいであり、聴力レベルでは個人差があります。補聴器をかけると聞こえる方もいれば、かけても全く聞こえない方もいます。

私の場合は、補聴器をかけるとまわりの音は聞こえますし、音声や音楽などの「音」の判別は大体出来ますが、誰が何を話しているのか、どんな音楽なのかまでは判別が出来ません。

補聴器が無いと全く聞こえず、私の後ろに救急車が走っても聞こえないのです。昼間なのに、真夜中の様に静かでまわりが動いて見えるだけです。車や電車、飛行機、ヘリコプターなど、音も無く動いて見えるだけです。ですから、聴覚障がい者は皆「音の無い世界」に生きているのです。

コミュニケーション手段は、聴覚障がい者それぞれですが「目で見る会話」が殆どです。つまり、手話や筆談が主流です。

私達聴覚障がい者も、皆様と同様に社会生活していくためには、あらゆる環境に情報保障が必要です。また場合によって「情報支援者」も必要です。その私達が望む情報保障については、第2回の検討会時に配布された【参考資料8】(障害者達が暮らしやすい街づくりの理想提案)に書いてある通りです。

みなさま、どうか、聴覚障がい者に対するご理解とご協力をお願いいたします。